

2017年3月期 業績概要

橋本 裕一
アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2017年4月28日



東証第1部：6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

- I. 事業概要
- II. 2017年3月期 連結決算概要
- III. 2018年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. 2018年3月期の取り組みについて
- V. 5G/IoTが切り拓く
「つながる」需要の拡大と進化
～ Mobile World Congress 2017 Report ～

ノート部記載なし)

I. 事業概要

T&M事業

開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備

PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2017年3月期 実績(連結) : 876億円

T&M 68%			PQA 22%	その他 10%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 18%	アジア、パシフィック 37%	米州 27%	EMEA 18%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

II- 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

➡ 減収・減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 10/27 業績予想
受注高	946	889	△ 57	△6%	875
売上高	955	876	△ 79	△8%	875
営業利益	59	42	△ 17	△28%	22
税引前利益	54	36	△ 18	△33%	14
当期利益	38	27	△ 11	△27%	10
当期包括利益	6	33	27	417%	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比6%減の889億円、売上高は前年同期比8%減の876億円となりました。営業利益は前年同期比28%減の42億円となりました。

当期利益は27億円、当期包括利益は33億円となりました。

II - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 10/27 業績予想
T&M	売上高	677	593	△ 84	△12%	585
	営業利益	47	21	△ 26	△55%	5
	(調整後営業利益)*	(54)	(25)	(△29)	(△54%)	-
PQA	売上高	189	196	7	4%	200
	営業利益	12	13	1	9%	14
その他 (含：内部消去)	売上高	89	87	△ 2	△2%	90
	営業利益	△0	8	8	-	3
合計	売上高	955	876	△ 79	△8%	875
	営業利益	59	42	△ 17	△28%	22
	(調整後営業利益)	(66)	(46)	(△20)	(△30%)	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*調整後営業利益：営業利益から一過性の性格を持つ損益項目を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標。PQA, その他は調整項目なし。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

6

Financial Results FY2016
Copyright© ANRITSU CORPORATION

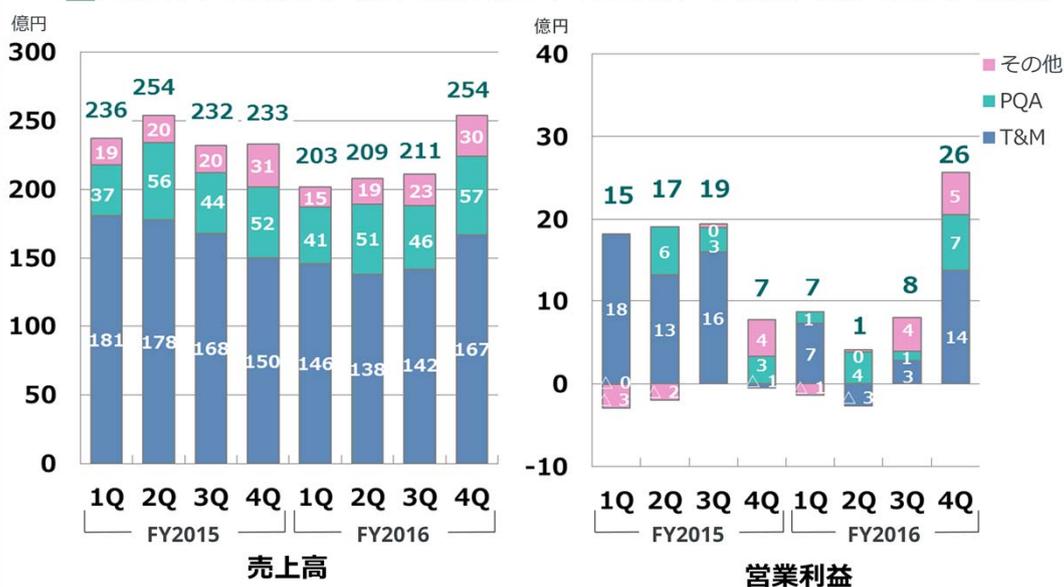
T&M事業は減収減益となり、営業利益率は3.6%となりました。

欧米でのリストラ費用およびM&A関連費用約4億円を除く、調整後営業利益率は4.2%となりました。

PQA事業は増収増益となり、営業利益率は6.6%となりました。

II - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第4四半期の連結営業利益率10.1%、T&M営業利益率8.3%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

第4四半期の連結及びT&M事業、PQA事業の営業利益率はそれぞれ

連結 10.1%

T&M 8.3%

PQA 11.7%

となりました。

II- 4. 事業別営業概況

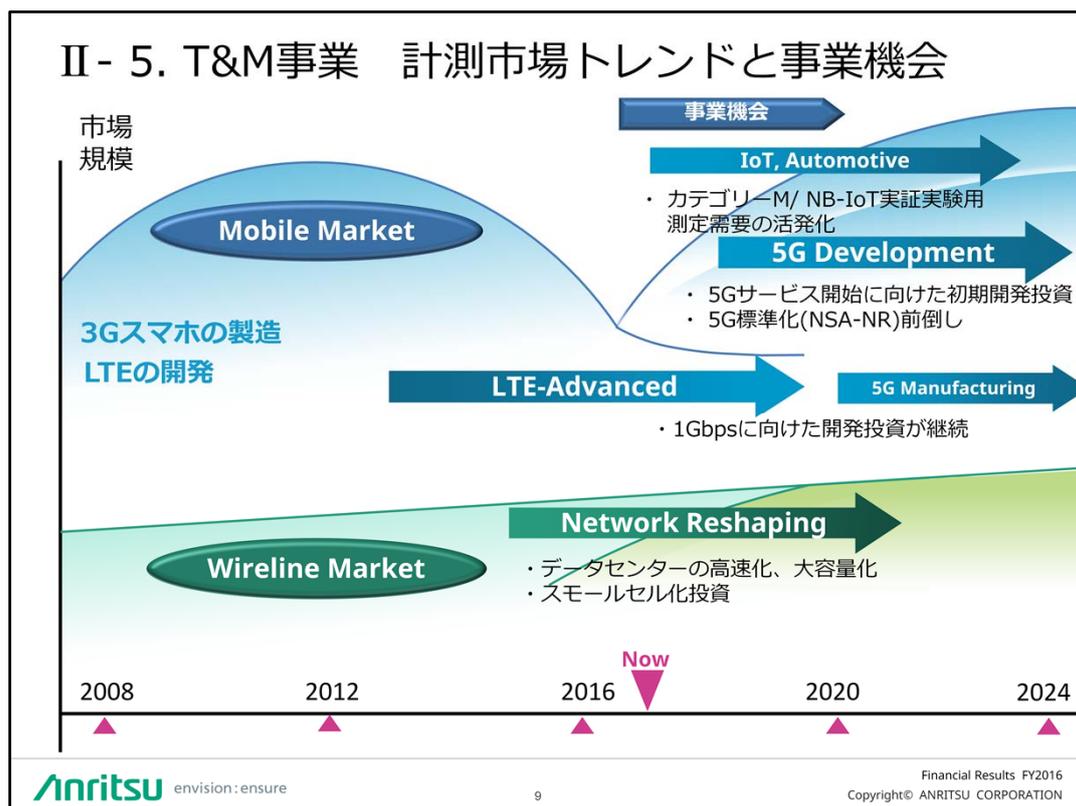
セグメント		2017年3月期（4月-3月）の状況
<p>➡ T&M : スマホ関連市場は投資抑制が続く</p>		
モバイル	LTE-Advanced	LTEと5Gの端境期で慎重な投資が続く
	5G, IoT, Connectivity	オートモーティブ・5G / IoTの開発案件が具体化
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調	
アジア	LTE-Advanced開発投資は抑制気味に推移 スマホ製造市場全体の成長鈍化で競争激化	
米州	光デジタル関連への設備投資は改善傾向	
<p>➡ PQA : 国内・海外ともX線の需要が堅調</p>		
<p>T&M: Test & Measurement NW: Network Infrastructure PQA : Products Quality Assurance</p>		

T&M事業は、スマートフォン市場において、全般的に顧客の投資抑制が継続しています。とりわけ、LTE-Advanced関連のR&D市場は、LTEと5Gの端境期であったため、投資に慎重な姿勢がみられました。

一方で、自動運転に向けた開発競争が激化するオートモーティブ市場や、カテゴリーM、NB-IoTといったオペレータ主導のセルラーIoT分野の開発案件が、具体化してきています。また、国内・海外の主要オペレータが5G実証実験の計画を発表するなど、5G商用化に向けた動きが具体化しつつあります。

ネットワーク・インフラの高速化投資が活発化しており、光モジュール開発・製造用の計測器の需要は堅調に推移しています。

PQA事業は、国内・海外ともX線検査機の需要が堅調で、全ての地域で伸びています。



営業概況のとおり、T&M事業の事業環境は、スマートフォン関連市場の端境期にあたることから、投資抑制が続いてきました。

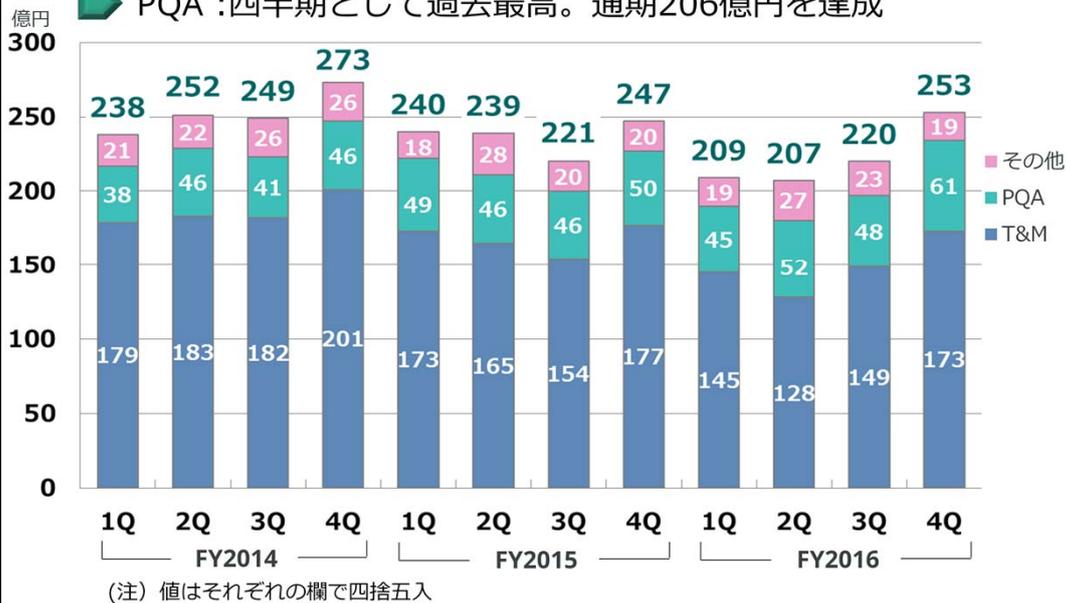
一方で、3GPPの5G標準化前倒しで、各国キャリアの2019年の商用化に向けた動きが具体化してきました。そのために、「5G Development」および「LTE-Advanced」関連市場で、開発用需要の動きが予想されます。なぜならば、2017年12月に標準化予定のNSA-NR(Non Standalone New Radio)では、5Gの実現のためLTE-Advancedの技術を利用することを前提としており、今後の5Gの実現に向けてLTE-Advancedは、不可欠な技術となるからです。また、LTE-Advancedの高速化(1Gbps)に対応した開発用測定需要が見込まれます。

「Network Reshaping」関連市場は、データセンターの高速化、大容量化実現のための光モジュール評価用ソリューションの需要が堅調です。100Gbpsの光モジュール製造用測定需要と、さらなる高速化の実現に向けた400Gbpsの光モジュール開発用測定需要が堅調です。

II- 6. 受注高推移

➡ T&M：全ての四半期で前年度割れが続く

➡ PQA：四半期として過去最高。通期206億円を達成



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2016
Copyright © ANRITSU CORPORATION

T&M事業の第4四半期受注高は、LTE-Advanced開発用計測器やスマホ製造ベンダーからの需要獲得などにより、173億円となりました。

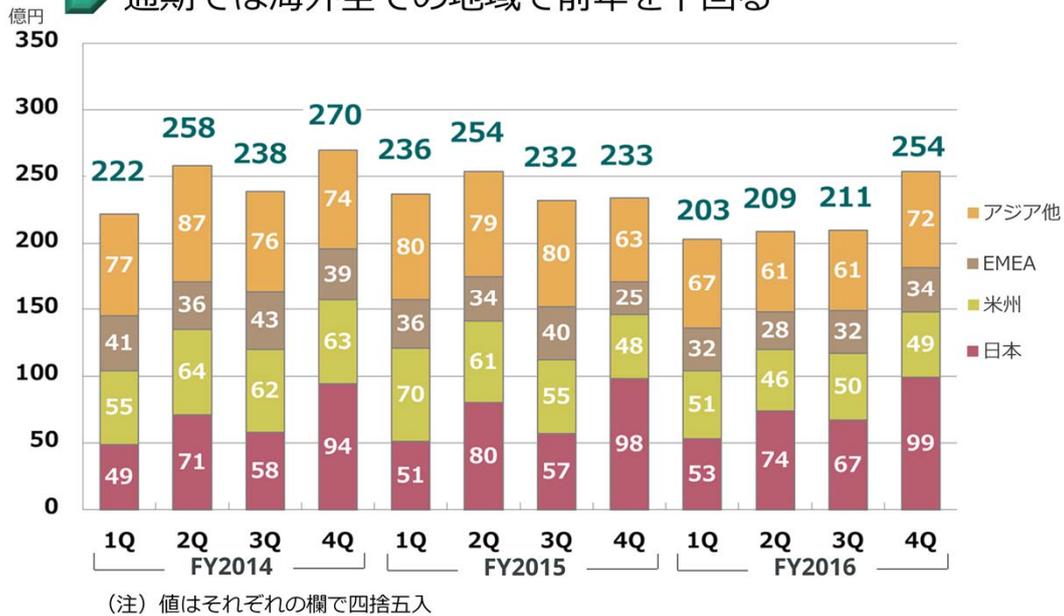
しかしながら、通期では、全ての四半期で前年度割れであり、依然として厳しい受注環境が続いています。

PQA事業の第4四半期受注高は、四半期としては過去最高の61億円で、通期206億円を達成しました。

なお、受注残高はグループ全体で182億円(前年同期比2%増)、T&M事業で132億円(前年同期比4%減)でした。

II- 7. 地域別売上高推移

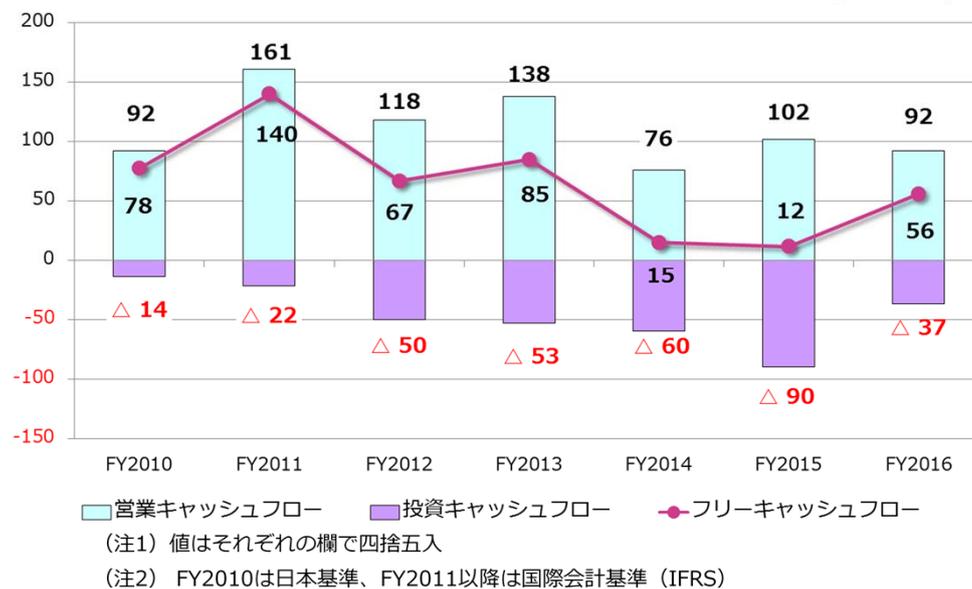
▶ 通期では海外全ての地域で前年を下回る



地域別通期の売上は、日本市場でPQAの売上が好調であったため、前年比3%の増収となりましたが、T&Mは前年並みでした。米州市場は前年比16%、EMEA市場は8%、アジア市場は13%、それぞれ減収となり、海外全ての地域で前年を下回りました。

II- 8. キャッシュフロー (1/2)

(単位：億円)



運転資本の効率化等により、営業キャッシュフローを着実に獲得しています。2015年度は、グローバル本社棟の建設を含む有形固定資産の取得による支出が主なものです。

II- 8. キャッシュフロー (2/2)

➡ 営業CFマージン率10.5%

内訳

(単位：億円)

FY2016 (累計)

- ①営業CF： 92億円
- ②投資CF： △37億円
- ③財務CF： △28億円

フリーキャッシュフロー
(①+②)： 56億円

現金同等物期末残高
397億円

有利子負債高
220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、92億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、37億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは56億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフロー 資金流出28億円の主なものは、配当金の支払い
27億円(1株配当 6月:12円、12月:7.5円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より23億円増加の397億円となりました。

Ⅲ- 1. 2018年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 成長ドライバーの獲得に注力し、前年度並み以上を確保

（単位：億円）

		2017/3期	2018/3期		
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		876	910	34	4%
営業利益		42	44	2	4%
税引前利益		36	42	6	16%
当期利益		27	30	3	10%
T&M	売上高	593	610	17	3%
	営業利益	21	22	1	3%
PQA	売上高	196	215	19	10%
	営業利益	13	15	2	15%
その他 (含：内部消去)	売上高	87	85	△2	△2%
	営業利益	8	7	△1	△13%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY16為替レート : 1米ドル108円、1ユーロ=119円
FY17想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=120円

Anritsu envision:ensure

14

Financial Results FY2016
Copyright© ANRITSU CORPORATION

2018年3月期の通期業績の見通しは上記のとおりです。

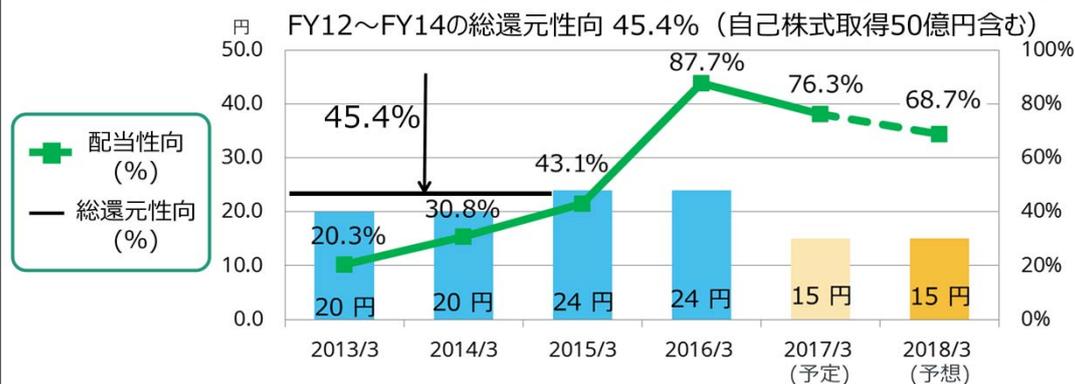
T&M事業の売上高は、「スライド9の事業機会」を確実に獲得することで、前期比3%の増収を見込みます。営業利益は、5G関連の開発投資を重点的に行うため、前期並みの水準にとどまる見込みです。

PQA事業は、前年度に引き続いて、国内外の食品加工市場における品質保証ニーズを、最適なソリューションの投入で確実にとらえて、売上高215億円を目指します。

Ⅲ- 2. 配当予想について

年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向
2018年3月期（予想）	15円	30億円	69%
2017年3月期（予定）	15円	27億円	76%



Anritsu envision:ensure

15

Financial Results FY2016
Copyright © ANRITSU CORPORATION

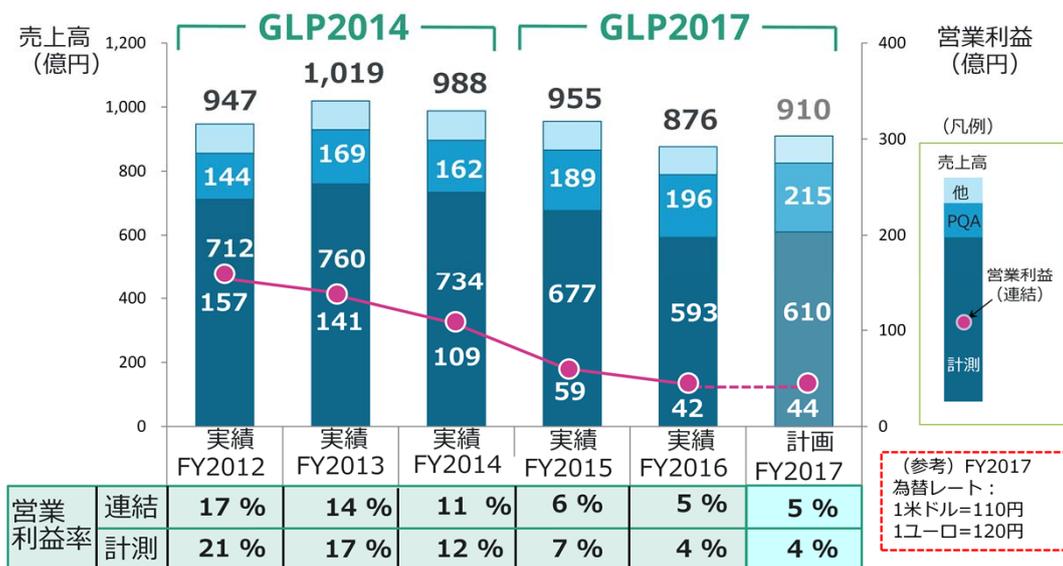
当社は、株主の皆様に対する利益還元について、連結業績に応じるとともに、総還元性向を勘案した利益処分を行うことを基本方針としております。剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることを基本にしつつ、連結配当性向30%以上を目標としており、株主総会決議もしくは取締役会決議により、期末配当及び中間配当の年2回の配当を行う方針です。

次期の配当は、次期業績見通しの達成を前提として、1株当たり年間15円(うち中間配当7.5円)を予定しております。

IV. 2018年3月期の取り組み について

(ノート部記載なし)

IV- 1. 業績推移と3ヶ年計画GLP20xx



2017年度を最終年度とする3ヶ年計画GLP2017は、2015年度の終了時点で、計測事業の劇的な環境変化によって未達の見通しとなることを報告しました。その後、経営構造改革施策で業績悪化に対する歯止めを注力するとともに、5G/IoTの事業機会に向けた成長投資を実施してきました。2017年度も、この経営方針を継続して、強固な経営基盤の構築に努めます。

IV- 2. GLP2020に向けて



今年度は、2018年度を初年度とする3ヶ年計画GLP2020の編成に向けて、成長ドライバーを確実にキャッチし成長性を回復するとともに、強靱な利益体質の構築に向けた基盤固めに取り組みます。

IV- 3. 中長期の事業戦略の基本方針 <再掲>

成長ドライバーを確実にキャッチして、
“利益ある持続的成長” を実現する

	市場 年平均 成長率	成長ドライバー	ターゲット	
			売上 成長率	営業 利益率
T&M	3-5%	ブロードバンドの拡大と革新 (1) LTE-Advanced, 5G (2) IoT, Connectivity (3) Network Reshaping	≧7%	≧20%
PQA	3-5%	安全・安心と健康の増進 X線による品質保証ソリューション	≧7%	≧12%
連結	—	—	—	≧18%
ROE	—	—	≧15%	

中長期の事業戦略の基本方針は、成長ドライバーを確実にキャッチし利益ある持続的成長を実現することです。

主力のT&M事業の成長ドライバーに変更はありません。あらゆるものが様々な方式でインターネットに繋がる社会(5G/IoT)が実現されようとしています。アンリツはその実現を支える通信技術の発展の中で事業機会を確実にとらえていきます。

PQA事業の成長ドライバーは「安全・安心と健康の増進」です。

中長期の経営基本戦略において目標とする成長率、利益率、ROEは上記のとおりです。

V. 5G/IoTが切り拓く 「つながる」需要の拡大と進化

～ Mobile World Congress 2017 Report ～

アンリツ株式会社
専務執行役員
計測事業グループプレジデント

濱田 宏一

(ノート部記載なし)

V- 1. 測定器メーカーから見たMWC2017

「Mobile World Congress 2017」 2月27日～3月2日にかけて、
スペイン・バルセロナで開催された世界最大のモバイル関連のイベント

5G標準化前倒し、2019年の商用化が視野に！

Gigabit LTE端末の登場、さらなる高速化と大容量化

セルラーV2Xが注目、車の安全安心にセルラーが役立つ日がある

アンリツのハイライト、各社IoTモジュールと接続、WLAN新製品登場

GLP2020における計測事業の戦略と成長機会を紹介します。

「いつでも、どこでも、安全、安心、快適につながる」ことにより社会価値と顧客経験価値(カスタマ・エクスペリエンス)を提供するブロードバンド環境を実現する為の技術進化は、とどまるところを知りません。端末の測定にかかわる”モバイル事業”と、無線インフラの測定にかかわる”ネットワークインフラ事業” 其々の分野で大きな成長機会が具現化してきています。

V- 3. LTEサービスのさらなる高速化と大容量化



ZTE社の
Gigabit LTE端末の展示



クアルコム社の
Unlicensed Band対応
LTE端末のライブデモ

1Gbps
LAA
5CA
256QAM
8X4 MIMO



4K高画質ディスプレイ
搭載端末

LTE-Advancedの高速化(1Gbps)を実現するためのGigabit LTE端末が、紹介されて
いました。
また、アンライセンスバンドを利用するLAA対応の端末も紹介されており、今後、5G
商用化に向けた投資は勿論のこと、LTE-Aへの投資も期待出来ます。

V- 4. セルラーV2Xが注目、車の安全安心にセルラー

V2Xの4つのユースケース



自動車メーカーのコネクテッドカーの出展が目立つ中、V2Xのライブデモが4つのユースケースで行われました。

当社は、11p方式のV2X無線システムの開発、評価、製造の各用途に最適なソリューションを提供します。

また、LTE仕様を拡張した「LTE V2X」も3GPP Release 14として2017年3月に仕様が合意されました。

「LTE V2X」では、当社の強みであるセルラー測定ソリューションを提供し、車の高度な安全走行に貢献してまいります。

V- 5. アンリツのMWC2017



新製品の無線LAN評価
用テストに注目集まる



IoTデバイス各社と協
力した無線性能評価の
実機デモ



最先端の5Gミリ波測定
5Gネットワーク評価



業界をリードする
LTE-Advanced Pro
開発ソリューション

当社ブースでは、IoT向けWLANや、5Gテストソリューションコンセプトを提案しました。チップセットベンダーから相次いでCat.M/NB-IoT対応の商用チップが発表されるなか、実際のモジュールを使っでの無線評価試験が好評を博しました。

MWCでは、近年お客様との個別ミーティングが年々増加してきており、当社ブースは、当社の測定ソリューションをお客様に深く理解して頂くための有意義な場となっております。

V- 6. WLAN新製品に注目集まる



ワイヤレスコネクティビティテストセット **MT8862A**

IEEE802.11ac/n/a/g/bに対応した通信プロトコルを実装、WLAN機器の性能を実動作状態で測定できるネットワークモードを搭載しています。

ネットワークモード無し



スマートフォンで使うモジュールを
組み込む前にテスト

WLAN機器
(試験対象)

ネットワークモード有り



IEEE802.11ac/n/a/g/b
通信プロトコルで制御

業界初
11ac対応



様々なIoTデバイスのテストが
実動作状態で可能

WLAN機器
(試験対象)

当社の新製品、MT8862 ワイヤレスコネクティビティテストセットに注目が集まりました。
本製品は、スマホの品質評価だけではなく、様々なIoTデバイスの評価試験にも対応しております。



(ノート部記載なし)